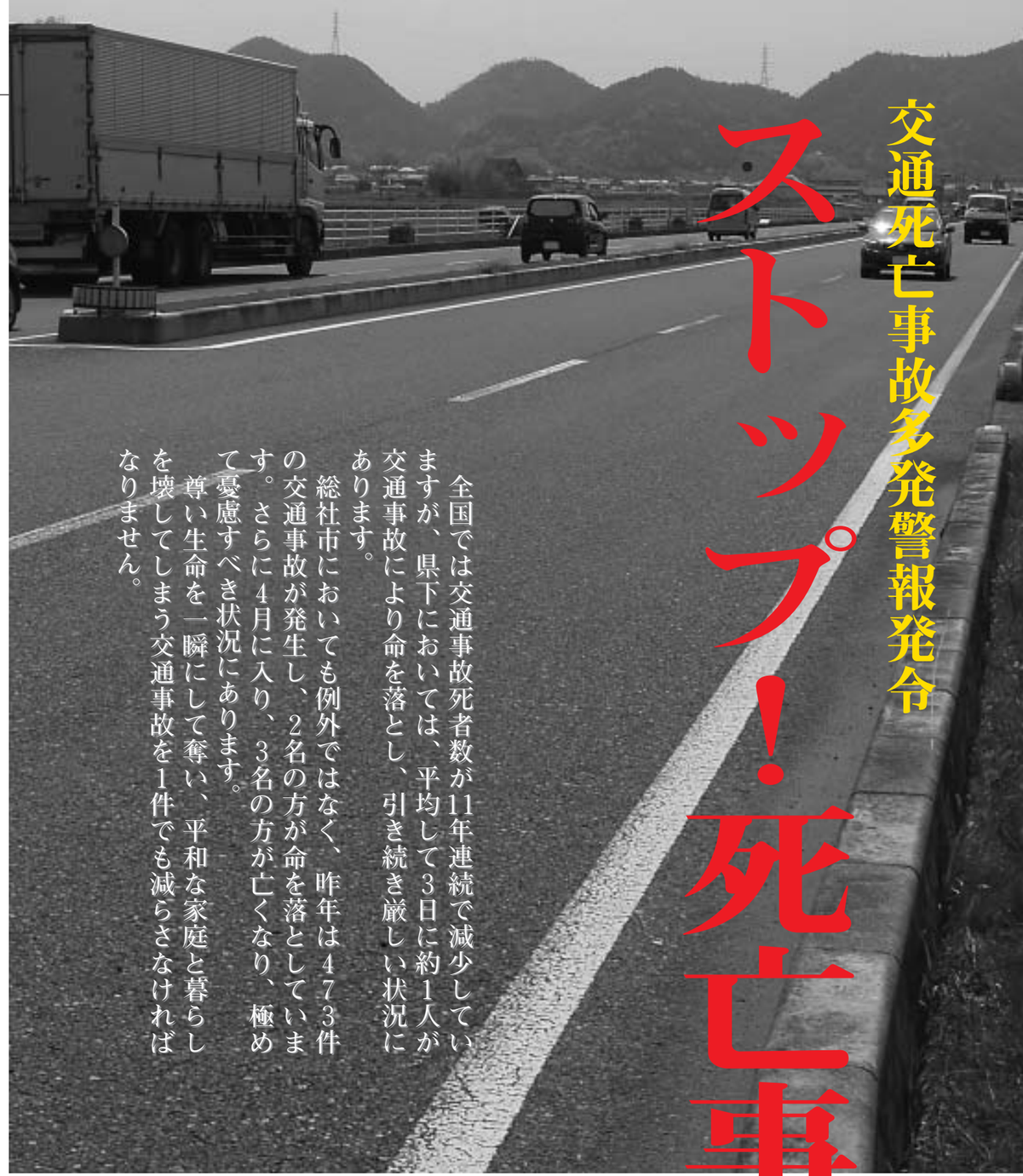

交通死亡事故多発警報発令
ストップ！死亡事故

全国では交通事故死者数が11年連続で減少していますが、県下においては、平均して3日に約1人が交通事故により命を落とし、引き続き厳しい状況にあります。

総社市においても例外ではなく、昨年は473件の交通事故が発生し、2名の方が命を落としています。さらに4月に入り、3名の方が亡くなり、極めて憂慮すべき状況にあります。

尊い生命を一瞬にして奪い、平和な家庭と暮らしを壊してしまう交通事故を1件でも減らさなければなりません。

■交通死亡事故多発警報を発令

市内で交通死亡事故が相次いで発生したことから、一層の交通事故防止に努めてもらうため4月19日正午、交通死亡事故多発警報を発令しました。

20日には、交通死亡事故がこれ以上続かないよう緊急対策会議を総合福祉センターで開催。交通指導員や総社警察署員、学校関係者、市職員など約100人が出席し交通安全対策について協議しました。市長は「交通死亡事故が二度と起きない体制を一刻も早く作りたい。心をひとつにしよう」と呼びかけました。

会議では広報・啓発活動やパトロール、関係者への注意喚起など、市と総社警察署が今後取り組むべき交通事故撲滅に向けた諸施策について協議。関係機関と市民が一丸となって交通安全を徹底していくことを確認しました。

■油断や過信が事故を生む

ちょっとした気の緩みや油断、このくらいならと大丈夫という過信、その気持ちが事故を生みます。死亡事故の原因の大半が、「漫然運転」「脇見運転」「安全不確認」といった基本的な安全運転義務違反によるものです。慣れた道でも歩行者の飛び出しがあるかもしれない、前方の車が急ブレーキをかけるかもしれないといった危険を予測した安全運転を心がけましょう。

■ゆとりある心で

事故は交差点とその付近で多く発生しています。交差点では減速、停止、発進、右左折などさまざまな運転行動が要求されます。また対向車、後続車、自転車、歩行者など注意すべき対象も多くあります。周囲の状況によく目を配るとともに、自分優先の気持ちは捨て、思いやりの心をもち、できるかぎり安全な速度と方法で運転しましょう。

安全運転のためには運転技術も大切ですが、平静さを保つことも重要です。急ぎや焦りの気持ちがあると冷静な判断ができなくなってしまいます。早めに出発する、イライラしたときは休憩するなど、時間や気持ちにゆとりをもつようにしましょう。

■強い意識で事故のないまちに

事故は一人ひとりが交通ルールやマナーを守ることにより防げるものです。交通安全はまず自分からということを強く意識し、交通事故の被害者にも、加害者にもならないようにしてください。そして、事故のない安全で安心なまちをみんなで作っていきましょう。

国道429号へ進入する車に注意喚起を促す看板を設置するとともに、二度と悲惨な事故が起こらないように警備員を配置している

信号機の設置を求め要望書と署名を提出

サンロード吉備路出入口の国道429号に信号機の設置を求める要望書を、サンロード吉備路とサン直広場ええとこそうじゃが57人の署名とともに5月2日、市に提出しました。

4月18日に同所で起きた交通死亡事故を受けての要望。署名は、同施設の関係者らが利用者や買い物客などに呼び掛けて集めたものです。

市では、4月24日に提出されていた地元の土木担当委員や自治会長らからの要望書とこの要望書を合わせて5月7日、総社警察署に信号機設置の要望書を提出しました。

サンロード吉備路の谷本耕一支配人とサン直広場ええとこそうじゃ本安環会長から署名を受け取る市長